大阪市教

2023年12月7日
VOL. 608

発行　大阪市学校園教職員組合
大阪市中央区法円坂1-1-35（大阪市教育会館内）
TEL 6910-8700　FAX 6910-7990

万博で財政破綻、中止を
市民要求実現の財源は充分

大阪市をよくする会は11月6日、秋の要求運動ステップアップ集会を行いました。

築港地域の学校統廃合反対（港）、公園の整備不良調査（西淀川）、保育園・特養ホーム建設の成果（天王寺）、低水準の保育（学童指導員・福保労）の報告を受け、森裕之氏は要求を実現する財源は十分あることを詳細に明らかにしました。

大阪市の財政の特徴は、①基金が多い、財政調整基金2452億円。コロナ対策の国費を余らせ基金を積み上げ。②借金負担が少ない。どの自治体でも行っている市債で住民のための施設を作るということをしない。③施設の老朽化が進んでいる。水道整備手つかず。緑が少ないにもかかわらず「木を切る改革」を強行。④住民サービス減少。公共を担う公務員の大幅削減。⑤市税収入の増加。

住民サービスの削減と公共施設の老朽化対策放棄により財政状況を「改善」し、基金残高を急増させています。人口動態を見ると、企業と新中間所得層が大阪市の中心部を占めてきています（市民層の入れ替え）。大企業優遇とタワーマンション促進で富裕層・投機マネーは流入するが、市民の転出、地元企業・商店街の減少、コミュニティの弱体化が進んでいます。

万博・夢洲整備の大阪市負担は、現時点で判明しているだけでも4000億円以上。最悪の阿倍野再開発事業の損失額（2150億円）を大きく上回る。万博で財政は破綻します。一般市民を軽視した、企業・高所得者向けの財政運営の転換が求められています。

市労組連

一時金2・3月、差額支給
相対評価区分見直し

市労組連は11月8日「賃金確定要求」の団体交渉を行い給与改定の回答を得ました。①期末・勤勉手当2・3月分を12月8日支給（年間4・5月）。再任用職員は1・2月（年間2・35月）。会計年度任用職員は1・35月（来年度は期末・勤勉手当ともに本務職員と同様）。②給料表の改訂は、行政職3175円、教育職（小中）3194円、4月に遡及し、差額は12月18日支給。会計年度任用職員の報酬についても改定、給与改定の時期は、12月期の期末手当支給対象者は4月1日に遡及。支給対象とならない職員は23年12月1日実施。④行政職大学卒初任給7500円、高校卒8500円引上げ、30歳台までの職員に対して適用される級及び号給は、40歳台以上よりも高い改定率。

「3年半以上に及ぶ新型コロナウイルス感染症への対応や物価高騰に対し市民生活を守るために懸命に奮闘する職員の大幅な賃金引上げ、処遇改善を望む教・職員の切実な願いとはかけ離れたもの」（団体交渉・市労組連主張）ですが、2年連続の賃金引上げ、会計年度任用職員の給与改定4月遡及、勤勉手当支給が実現しました。

「期待通り」の勤務にもかかわらず相対評価のために第4・5区分とされる人事考課制度について、相対評価の割合見直しが実現します（大阪市教号外11月9日参照）。

市労組連は引き続き、賃金確定要求書の労働条件関係、学校関係、労働安全衛生・福利厚生関係要求項目の事務折衝・団体交渉を行います。

ガーベラだより

子どもを支えるSSW
なり手不足 正規職員に

青年フェスタ

私は今年度から大阪市の公立小中学校でスクールソーシャルワーカー（SSW）として働いています。業務を通して、不登校・いじめ・虐待・家庭環境などの課題を抱えながら生活をしている子どもが多くいることに気付かされています。子ども達をより適切に支えていくために、SSWの必要性はさらに増していくと思います。

しかし、SSWは「会計年度任用職員」であることが影響しているのか、なり手不足の状況が続いています。

子ども達を適切に支えるためにも、教員の業務負担を減らすためにも、SSWの安定した配置が必要です。少しでも早くSSWが正規職員となることを強く願っています。（SSWについては、青年フェスタの分科会でも話題になりました）。

今こそ憲法9条
戦争を始めない政治を

九条の会・おおさかは11月19日、池田佳代子さんの講演会「世界がもし100人の村だったら」から20年～今こそ憲法9条の出番～を行ないました。

ガザ市のゴミ焼却場は日本のODAで造られたように、学校をつくる、食糧支援を行うなど日本とパレスチナはつながっています。今イスラエルが破壊しており抗議すべきです。

イスラエルで最も読まれている新聞はラスベガス・サンズ（カジノ）社長の資金であり、ヨルダン川西岸地域の違法入植をマクドナルドやスターバックス、ディズニーが支援しています。

ユダヤの人々は好戦的ではなく、歴史的な経験から多様性を尊重し、平和に生きることを求めてきました。

イスラエルは国際法違反を繰り返しており、パレスチナ問題は、戦後世界政治の欺瞞を煮詰めたようなものです。ドイツはナチスの歴史がありイスラエル批判に躊躇する。しかし、いま犠牲になっている人々、子ども・女性の側に立つことが大切です。

日本は西アジアを植民地支配せず、アラブの人たちと何とかいい関係を作ってきました。いくつかの国と力を合わせ、仲裁役を買って出て欲しい。

ロシアのウクライナ侵攻で、戦争が始まると終わらせることの困難が明かになりました。憲法九条は「何があっても他国を攻めません」で、攻め込まれないような政治をしなければなりません。

池田さんは、「これまでの国民の願い、取り組みで戦争を許さなかった。九条の会は最後まで、死ぬまで頑張りましょう」と訴えました。

汚染水放出 復興妨げ
生活破壊の原発は廃炉

「福島の今、復興に立ちふさがる原発」をテーマに、写真家の森住卓さんが、福島原発のメルトダウン翌日からの「風下の村」津島地区の12年間を講演しました（大阪母親大会アフター企画11月4日）。

相馬市では畜産農家が汚染牧草を食べた牛の牛乳を毎日畑に捨て、「原発さえなければ」と牛舎の壁に書き記した写真（後に自殺）。浪江町津島は満州から引き揚げて山林を開拓した地域で、結びつきが強い。帰還困難区域になり、村民はバラバラに。築三百年重要文化財になるような民家が解体され、人々が住んでいたことが消され、原発事故の証拠を無くそうとしている。帰還困難区域のゲートも撤去。

一方ふるさとを返せと原発訴訟を起こして、現在闘っている状況や、甲状腺がんを発症した子ども7人が22年に東電を相手に訴訟。たくさんの写真で報告しました。

政府・東電が「関係者の理解なしには、いかなる処分も行わない」と約束した原発汚染水海洋放出こそが復興の妨げ、国は今すぐ海洋投棄を止めて原発の廃炉をすべきと強く訴えました。

たんぽぽだより
12月

風が冷たく、ようやく冬らしい日が続くようになりましたね。インフルエンザなどの感染症が流行していますが、皆様体調いかがでしょうか？

11月25日、26日の2日間、第35回青年フェスタ&近畿ブロック学習交流集会が江坂サニーストンホテルでありました。今回は、全教近畿ブロック青年部交流集会も同時開催ということで、大阪だけでなく、関西圏やそれ以外の県からも総勢140人も集いました。

1日目は実践レポート交流会。2日目は実技講座と充実した2日間を過ごすことができました。また、宿泊も復活したため、夜の交流会も大盛況で熱い議論が各テーブルで繰り広げられていました。

毎日大変だと思いますが、このつながりを大切に、またそれぞれの職場で無理せず頑張りましょう。23年もあと少しです。皆様良いお年をお迎えください。